

＜事例4＞ 題材名 「ふしの特徴をとらえ豊かに表現しよう」(6 時間扱い) 小学校第 5 学年

～音楽を特徴付けている諸要素をとらえ、表現活動に生かすためのアプローチ～

1 はじめに

本事例を進めるに当たり、次のような考えをもとに指導計画を作成し実践を進めていきたいと考えた。

まず、ここでは「読解力」を、リズムなどの音楽を特徴付けている諸要素を「感覚的にとらえる力」とすることである。この「感覚的にとらえる」とは、とらえる側である子どもの「音楽的な感性」により、音楽を特徴付けている諸要素をとらえるということである。つまり、子どもが、それまでに身に付けた、音楽活動の基礎的な能力や学習経験を基にして、音楽を特徴付けている諸要素を知覚し、音楽的な美しさや、楽しさ、悲しさ、喜び等、音楽の本来もっているものを素直にとらえ感得することと考える。

次に、音楽の諸要素を「音楽のもっている本質的で普遍的なもの」としてとらえることである。音楽の要素にはそれぞれ特有の音楽的な雰囲気があり、それら諸要素が統合されて音楽の美しさを醸し出しているのである。それ故、要素をいたずらに操作したり、子どもの思いだけで表現を歪曲させたりするのではなく、その楽曲（テキスト）のもっている諸要素固有の雰囲気を基にして、必然的な表現をしなくてはならないと考える。

本事例の研究領域である「歌唱」において、特に関係の深い音楽を特徴付けている諸要素を考えると、①発声（美しい声の感得・表現）、②声質（強弱・明暗等）、③音程（正しいピッチ）、④声の重なり（ハーモニー等）、⑤言葉の発音という音楽の特質である「書かれていないテキスト」と、⑥楽譜、⑦歌詞等といった「書かれたテキスト」に分けることができる。

「書かれていないテキスト」とは、鳴り響いた音そのものである。要するに目に見えないものである。その音（今回は歌声）がどんな音（歌声）なのかということを感じ、どんな感じに表現したいのか…というイメージをもち、子どもの感性に投げかけながら、表現活動を展開していきたいと考える。

「書かれたテキスト」では、本事例においては、楽譜に書いてある“歌詞”と“音（ふし）の動き”との関連がとても重要である。それをもとに、歌詞の内容(意味やイメージ)と音の（ふし）の動きを子どもの“感覚的にとらえる力”と関連させて、音楽の表現を引き出していきたいと考える。

以上述べてきたことを基とし、自校の子どもたちの音楽的な能力の実態を把握するとともに、①音楽を特徴付けている諸要素を感覚的にとらえる力、②楽曲（テキスト）を読み取れる（感得）できる力、③それに基づいて自分の思いや考えを表現する力、そして、④それらの能力の基礎・基本を系統的に指導すること、④教師自身が教材を深く研究し音楽の諸要素について学ぶこと、という点に焦点を当てて、本事例を実践していくこととした。

2 実践に当たって

まず、研究を進めるに当たり、自校の児童が身に付けている、音楽の基礎的な能力の実態を調査し(下記資料A参照)した。

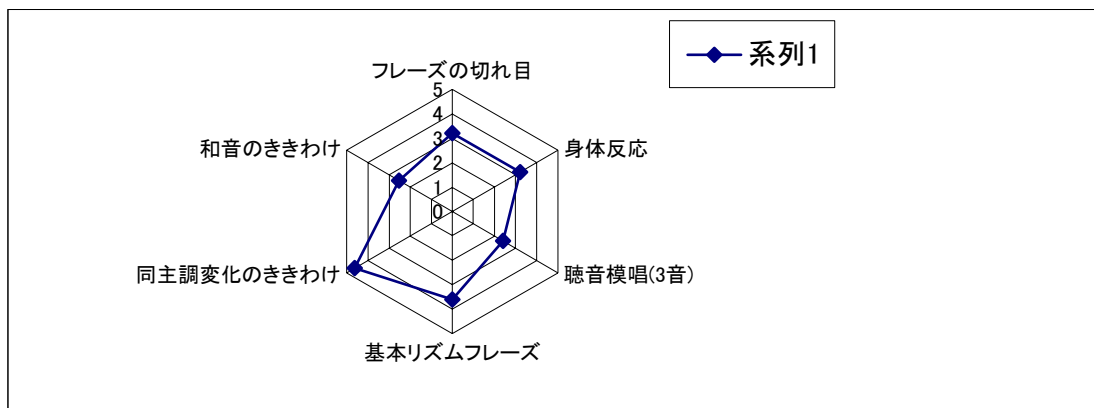
※ 資料A 現在の子どもたちの能力と今後の実践について

♪実態調査 5年生

音楽の諸要素に関する3つの領域

- ① メロディー(旋律)
- ② リズム
- ③ ハーモニー

における、「リズム」「同主調の変化」「和音」「フレーズ」の聴き分け、身体反応、また、3音（旋律の一部）を聴いて歌う聴音模唱等である。



上記の結果から分かることは、まず、和音の聴き分けと聴音模唱の項目が、他に比べ低い値を示していることである。つまり、音や声の重なる響きの感じを聴き分ける能力と、鳴り響いた音や楽譜の音符を読んだり模唱したりする能力に課題があるということである。

和音の聴き分けについては、学習指導要領高学年の目標にもある、“音の重なるひびき・・・”という項目にあるような能力を身に付けさせることが大切と考える。

聴音模唱については、低学年からの課題でもあり、子どもたちの音楽活動の基礎・基本ともなるので、しっかりと身に付けられるよう、実践の中で取り組んで生きたいと考える。

また、「フレーズ」の切れ目を感じ取る等、「ふし」や「フレーズ」に関する内容にも課題が見られた。特に、フレーズの切れ目や「つづく感じ」「おわる感じ」等を、感覚的に身に付けることは、楽曲の構成や形式（形式美）を知る上で非常に重要な諸要素となってくると考える。

以上の3つの項目を、継続的に授業内容に取り入れていくとともに、本事例ではこれらの点に焦点化して、指導を展開していきたい。

※ 資料B …教師自身が身に付けたい資質等…

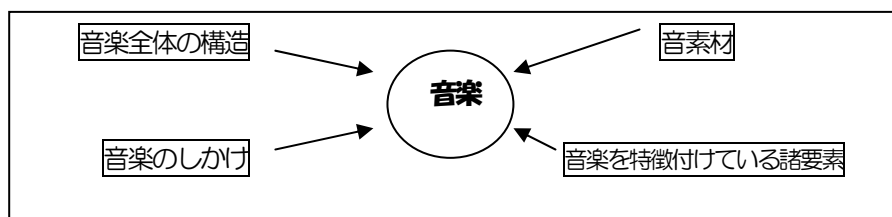
ここでは、音楽科として、子どもたちに読解力を身に付ける際、教師自身が身に付けておきたい資質等を、文部科学省教育課程課・高須一調査官の資料等からまとめたものである。

(1) 音楽を「読み解く」とは

「～音楽を理解・評価しながら読み解く、自己の解釈を加えたり建設的な批判をしながら読み解くことが音楽の読解である…」(初等教育資料平成18年6月号「音楽科における読解力の育成」文部科学省教育課程課・高須一調査官)とある。

(2) 音楽を読み解くための手がかりを音楽の構成的側面から見る。

(前頁資料 高須一)



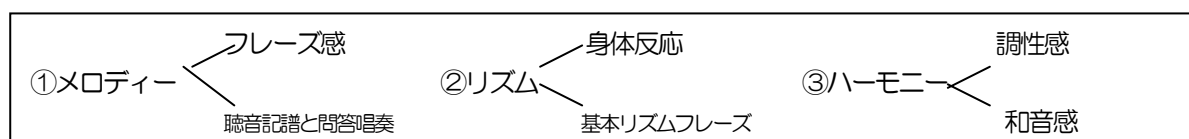
☆ 上記の図を手がかりとして考える。上記の内容はすべて音楽の諸要素としてひとくくりに考えられる。中でも「音楽のしかけ」は今回の読解力の育成に最も関連してくる内容ではないかと考える。

(3) 「音楽の諸要素」を読み解くための基礎・基本的な能力や音楽性を身に付ける。

楽譜・歌詞などの目に見えるテキストと音や音楽そのものの目に見えないテキストを理解する能力の育成が大切。音楽の知識・技能(読譜に必要な音符・休符・記号など)も必要であるが、「音楽を感覚的にとらえる能力」も大切だと考える。

☆ 小学校学習指導要領から・・・音符、休符、表現・曲想の記号等 →目に見えるテキスト

☆ 音楽を感覚的にとらえる能力の育成をする。→目に見えないテキスト



☆ 教師自身も音楽の要素を学ぶ

- ① フレーズ (形式含む) …音楽のはじまり方、動機、形式等
- ② 調 性……………長調・短調、転調、日本旋法、和声感等
- ③ リズム (拍の流れ) …拍感、拍子感、続く・終わる感じ、アクセント等
- ④ 旋律線…上昇下降、頂点構成、順次・跳躍進行
- ⑤ 速 度…速度感の把握、速度の変化、等速の持続
- ⑥ 増 減…主に強さに関する記号、クレッシェンド、デクレッシェンド
- ⑦ 音 色…人の声、楽器の音、複合・混合

これらの要素を的確に分析し、教材研究で楽曲の仕組みを理解することが大切である。

<事例> 題材名 「ふしの特徴をとらえ豊かに表現しよう」（6時間扱い）第5学年

～音楽を特徴付けている諸要素をとらえ、表現活動に生かすためのアプローチ～

1 題材の目標

- ふしの感じの違いに気付き、豊かに表現できるようにする。→（リズム・メロディーをとらえる力）
- ふしの重なりの違いに気付き、その重なりを感じながら表現できるようにする。→（ハーモニーをとらえる力）
- 歌詞の内容とフレーズのしくみ（諸要素）との関連を理解・感得し、表現に生かせるようにする。
→（曲の構成〈しかけ〉をとらえる力）

2 主な教材 ・「街は光の中に」 三浦 真理 作詞作曲

3 教材について（音楽の読解力と諸要素と関連させて）

この教材は教育芸術社の教科書「小学生の音楽6」に載っている歌唱曲である。日々過ごした場所からの旅立ちをイメージしたこの曲は、別れを意味付ける歌詞と感傷的な旋律、情感あふれる曲の構成やポピュラー風な伴奏によって淡々と歌い上げられる。目立った曲の山はないが、曲中に特徴的な要素を感じ取ることができる。そのほとんどが歌詞の内容や音楽的な効果等によってつくられていることが分かる。これらを今回の「音楽科における読解力」という観点から、諸要素を感覚的にとらえ、「気付かせ、発見させ、読み取り」、歌唱活動を通して音楽的な表現に結びつけていこうとするのが本題材のねらいである。

次に、本題材で扱う歌唱（合唱）と読解力の関連をあげると、①発声（美しい声の感得・表現）、②声質（強弱・明暗等）、③音程（正しいピッチ）、④声の重なり（ハーモニー）、⑤言葉の発音…という音楽の特質である「書かれていないテキスト」と、⑥楽譜、⑦歌詞等といった「書かれたテキスト」があげられる。そして、それらを理解し感得することは、音楽の読解力を表現に結びつけるために、非常に大切なことなのである。

また、歌唱指導というと、教師が表現を教え、子どもがそれらをそのまま表現する、といった指導も多く見られる。今回はこのような形態ではなく、子どもたちが感じ取ったものを基に、それらを音楽の要素と関連させ、読み取らせ、必然的で根拠のある音楽表現をさせていきたいと考える。

楽曲のもつ特徴的な音楽の諸要素は、上拍はじまり、一時的な転調、3連符、リズム相補、3つめの変化、フェルマータ、延長フレーズ、f、mfなどの音楽的な要素があげられる。本題材では、これらと、学習指導要領のA表現の（2）の項目「曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする」を関連させ、歌詞の内容と諸要素、それらの表現のつながりを学習させていきたい。

以下、詳しい楽曲分析を述べる。

常に上拍はじまりであるが、曲が進んでいくうちにそのはじまり方も工夫が見られる。ふしの重なり方では、斉唱～リズム相補的な重なり～同じリズムの重なり…というように、変化している。ここでは、それぞれの重なり方の違いに気付かせ、工夫した表現と和声感を育成することができる。楽譜の1段目と2段目の小楽節の動機を取り出し、ふしの雰囲気を表すと“明・暗、明・明”となっている。これはフレーズごとの表現の工夫に生かすことができる。なお、2段目の最後の動機では一時的な転調がされており、さらなる明るさを表現している。これは歌詞の内容に関連するものと思われ、表現活動に結びつけていくと効果的である。3番の後半では、3つめの変化・フェルマータ・拡大フレーズといった、この曲を印象付ける音楽的な要素が多く含まれている部分がある。

なぜそのような表現になるのか、そのような終わり方には何か訳があるのか等を深く考え、その表現の必然性を子どもの感性をもとに表現活動をさせていきたい。

以上述べてきたが、授業実践ではそのような理論的なことから迫るのではなく、楽曲

の各部分を、子どもたちの「音楽を感覚的にとらえる力」を基に音楽を読み取り、表現活動を中心に進めていきたいと考える。ここで出てくる“感覚的に…”とは「あいまいなとらえ方…」という意味ではなく、子どもの「感性により感得する力」という深い意味でのとらえ方と考える。そして、音楽の諸要素をどう気付かせ、読み取り、理解し、どう表現していくかという点に重点を置き、学習を展開させていきたい。

4 題材の評価規準

		ア 音楽の関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
内容のまとまりと 評価規準	器楽				
	歌唱	○	○	○	
	創作				
	鑑賞	○	○		○
題材の 評価規準		自ら進んで音楽と関わり、積極的に表現しようとしている。	音楽の諸要素に気付き、それを感覚的に感じ取り、歌詞の内容と関連させ音楽表現をしようとしている。	呼吸や発声などの基礎・基本を生かし、豊かで明るく美しい発声を目標に取り組んでいる。	音楽のイメージを持ちし、それを想像しながら鑑賞できる。
具体の 評価規準		①「学びの基礎」を進んで身に付けようとしている。 ②進んで活動に参加し、めあてをもって活動している。	①音楽の諸要素を感覚的に感得し、発見しようとしている。 ②諸要素の働きと歌詞の内容を理解し、音楽表現をしようとしている。	①呼吸や発声、声の質に注意して同一音色で豊かに歌ったり、表現を工夫して歌ったりしている。 ②声の重なる響きを感じ取り、和声的な流れを感得し表現している。	①模範演奏を、興味をもって鑑賞している。

5 指導と評価の計画(6時間扱い)

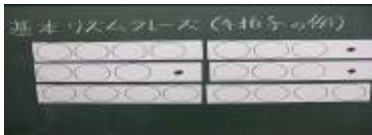
	ねらい ・主な学習活動	具体の評価規準 (評価方法)	教師の働きかけ ☆読解力に関する事項
第一次 第1時	ねらい①…音楽のしくみを読み解く力や、表現する力の基礎を身につける ・「学びの基礎づくり」を継続的にを行い、基礎を身に付ける。 →音楽の様々な要素を感覚的にとらえられる力を身に付ける。 ・「街は光の中に」の範唱を聴く。 ・「街は光の中に」を発声、言葉の発音、	アー① 意欲的に取り組み、進んで身に付けようとしている。 エー① 興味・関心をもって聴いている。 ウー①	・この題材において必要な音楽的な能力の基礎づくりに重点を置いて取り組む。 ♪拍の分割練習、ふしの流れ、ふしづくり 声の重なり(終止形輪唱等) ・楽譜を見ながら聴き、音楽のもつイメージや特徴を感じ取る。 ☆歌詞や楽譜を指でなぞりながら聴き特徴的・印象的な部分を感じ取っている。 ・声の響き、鼻濁音、呼吸、姿勢な

第2時	ブレス・・・に注意しながらパートごとに練習をする。 ・「街は光の中に」をパートごとに豊かで響きのある声で歌えるようにする。 ・二部合唱をしてふし(声)の重なる響きを感じ、味わいながら歌えるようにする。	発声、発音、ブレスを意識して自信をもって歌える。 ウー① 呼吸、発声に注意し豊かに歌える。 ウー② 声の重なる響きを感じながら歌い、和声的な流れを感じ取っている。	どを意識させ、自信をもって豊かに歌えるようにする。 ・歌声が同一音色になると美しいということに気付かせるよう指導を工夫する。 ・声の重なる響きを感じ得できるよう指導を工夫する。 ☆響きの質を感じ取れるよう 少人数、多人数で合わせる。
ねらい②・・・歌詞のイメージと音の動きにあった表現をする			
第3時	・歌詞の内容をイメージして、音の動きを感覚的に理解し歌唱表現ができるようにする。 ・音楽学習プリントを記入する。	イー①、ウー① 音楽の諸要素を感覚的に感じ取り、表現を工夫して歌唱している。 ↓	・歌詞の内容のイメージと音の動きを、リズム唱・奏をして感覚的とらえられるようにする。 ☆感じたことを、理解したり、自己の表現に解釈を加えたりしながら読み解き、表現する。 ・子どもたちが楽曲の特徴をどのように感覚的に感じ取っているかを把握する。
ねらい③・・・楽曲の諸要素を感覚的に感じ取り、豊かな表現ができるようにする			
第二次 第1時	・学習プリントをもとに、この曲の「好きな部分」や「印象的な部分」を取り上げ、そこに隠されているしかけを読み解いていく。 →楽譜や歌の感じをじっくりと読み取ったり聴き取ったりしてこの曲で改めて気が付いた事をまとめる。	アー② めあてをもって取り組んでいる。 イー② 諸要素の働きと歌詞の内容を理解し、音楽表現をしようとしている。	・全員が意見を出せるよう工夫した発表方法で行う。 ☆楽曲を構成しているリズム、フレーズ、旋律の動き、調性(和声感)等をさらに深め、歌詞の内容と関連させ豊かな表現をする。
本時 第2時 第3時	・子どもが取り上げたところを歌詞の内容や諸要素と関連させ、音楽的に豊かな表現ができるようにする。 ・これまでの学習をもとにより豊かな表現で合唱できるようにする。	イー② ウー① 諸要素の働きと歌詞の内容を理解し、声質を工夫して表現している。 ウー①、② 呼吸や発声に注意し、声の重なる響きや	・出された意見を基にして展開していく。 ・必要ならば教師がなげかけをしていく。 ☆歌唱表現においての諸要素と表現を関連させ、音楽の本質的な事柄を読み取り表現に結びつける。

		和声的な流れを感じ、豊かに表現活動している。	・教師の助言をしながら音楽表現を深めていく。
--	--	------------------------	------------------------

6 本時の学習(5/6)

- (1) 目標・・・ふしの感じに合った曲想を考え表現しよう。
- (2) 展開

学習内容 ・ 学習活動	・教師の働きかけ ◎ 学習活動における具体の評価規準 ☆ 読解力に関する事項
1 「学びの基礎づくり」をする。 ○拍の流れ・分割  ○基本リズムフレーズ  ○強弱に関する基本的な表現  ○発声練習、声の重なる感じ 	○本時のめあてにせまれることを意識しながら行う。 ♪拍感・フレーズ感を身に付けられるよう拍を手で取りながらリズム唱をする。 ※いろいろな組み合わせで行う。 ※3拍・4拍分でも行う。  ♪豊かで美しい歌声の基礎を身に付け、後の歌唱表現につなげられるように行う。 
2 「街は光の中に」を歌う。	・部分を取り出しながら歌唱指導をして、前時まで学習したことを想起させる。 ・前時で学習した「パートが分かれる(リズム相補)部分」についての表現を特に復習しながら今日のめあてに迫れるようにする。
3 学習のめあてを知る。	ふしの感じに合った表現をしよう
4 前時までの学習を基に進める。	・大きくした楽譜を利用し、部分的に取り上げて進めていく。

•この曲の最後の部分について深く理解し表現を工夫する。

•その部分にどのような特徴があるかを
読み解き、表現に関連させる。



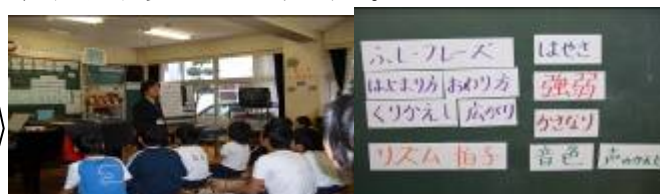
•3つめの変化、フェルマータ、拡大フレーズの諸要素を感覚的にとらえられるように助言していく。

☆ リズム唱・奏により、同じふしのくり返しや音符の長さの違いを気づき発見する。

•なぜそのような表現になるのかを、深く追究する。



•歌詞の内容ととらえた諸要素を曲想記号の強弱記号に関連させ、音楽的な表現ができるようにする。



☆ どのような強弱記号の変化があるかに気づき発見したり、楽譜に書き込みをしたりして曲想記号の表現の意味を理解し表現を工夫する。

•歌詞の内容と表現との関連をまとめる。



5 本時の学習をまとめて演奏する。

•どのような声質で歌ったらよいかを問いながら表現を深めていく。
•フェルマータや拡大フレーズをはずして歌ってみたりして、この表現の必然性を知る。

◎諸要素の動きと歌詞の内容を関連させ、声質や発声を工夫して豊かな歌唱表現ができる。

イー② 児童の発表・演奏観察

	・これまでの学習をもとに、部分から全体へ理解を広げていく。
--	--------------------------------------

7 観点別評価の進め方

【学習への意欲・関心・態度】

学習活動における 具体の評価規準	具体的な評価方法
	Cとされる状況への働きかけ Aと判断するキーワード
アー① 「学びの基礎」を進んで身に付けようとしている。	【具体的な評価方法】 活動に進んで参加しているかの様子観察、意欲的な表現の観察。 【Cと判断される状況への働きかけ】 速度を落とし、リズムなどを分かりやすくしてみたり、補助的な音を鳴らしたりして課題の目標を下げるなどしてみる。 【Aと判断するキーワード】 ・積極的に取り組む姿勢。 ・リズムや音に真剣に耳を傾け、それらを感じ取り表現しようとする姿勢。
アー② 進んで活動に参加し、めあてをもって活動している。	【具体的な評価方法】 めあてを知り、それに向かって自分なりに努力して取り組んでいるか。 【Cと判断される状況への働きかけ】 めあてとなることがらの、基礎基本をしっかりと身に付けさせる。また個人的な指導を実践していく。 【Aと判断するキーワード】 ・課題に進んで取り組む姿勢。 ・楽譜や音を真剣に読み取ろうとする姿勢。そして、それらを表現に生かそうとする態度。

【音楽的な感受や表現の工夫】

イー① 音楽の諸要素を感覚的に感得し、発見しようとしている。	【具体的な評価方法】 児童の発言や発表の様子観察。 【Cと判断される状況への働きかけ】 拡大譜を用いて大きな楽譜を皆で見ること、音楽を共有することができるようにする。 【Aと判断するキーワード】 ・ふしの特徴を感覚的にとらえ、積極的に発言や発表をしたりする姿勢。 ・楽譜や音楽(ふしや音)の様子を具体的に言葉で表現することができる。
イー② 諸要素の働きと歌詞の内容を理解し、音楽表現をしようとしている。	【具体的な評価方法】 児童の発言と演奏や発表の聴取。 【Cと判断される状況への働きかけ】 歌詞の内容を読み取らせ、ふしの内容と音の動きを具体的に演奏したりして感得させる。 【Aと判断するキーワード】 ・出合った意見から、曲想表現の工夫を具体的に発言できる。 ・歌詞の内容とふしの感じを関連させて、具体的な歌唱表現ができる。

【表現の技能】

ウー① 呼吸や発声、声の質に注意して同一音色で豊かに歌ったり、表現を工夫して歌ったりしている。	【具体的な評価方法】 児童の演奏聴取や、表情の観察。 【Cと判断される状況への働きかけ】 自分のパートがしっかりと歌えない児童は、個別に指導して自信をもって歌えるようにする。 【Aと判断するキーワード】 ・ふしの感じや歌詞との関連を理解し、発声を工夫して表現している。
ウー② 声の重なる響きを感じ取り、和声的な流れを感得し表現できる。	【具体的な評価方法】 児童の反応や発表を通してとらえる。 【Cと判断される状況への働きかけ】 歌うのではなく、聴いて感じ取れるように支援する。 【Aと判断するキーワード】 ・少人数や重唱でも表現でき、感じ取れることができる。

【鑑賞の能力】

エー① 模範演奏に興味を持って鑑賞している。	【具体的な評価方法】 児童の反応の観察。(挙手や発表) 【Cと判断される状況への働きかけ】 楽曲のイメージがしやすくなるように、視覚からもわかるようにする。 【Aと判断するキーワード】 曲趣にあった内容の事柄を発表したり、曲の特徴や音楽的な表現を聴き取れたものをAとする。
--------------------------------------	--

8 考 察（実践を終えて）

今回の調査研究では「音楽科における読解力の育成」を目的とした学習指導の展開を中心に置き、まず、“読解力を音楽的な面でどうとらえていくか”ということを共通理解することから始まった

音楽を読解することは「書かれたテキスト」、「書かれていないテキスト」を深く読み取ることや、音楽の構成的な側面（音楽を特徴付けている諸要素）からのアプローチが不可欠になってくることは高須一氏のお話にもあった。音楽を特徴付けている諸要素は様々あるが、リズム、フレーズ、調性、旋律、速度、強弱（増減）、音色等について分けて考え、それらを子ども達にどのように身に付けさせたらよいかということをも自分なりに考えてみた。それらについてまとめたものが以下の**資料C**ある。これらと、「音楽（諸要素）を感覚的にとらえる力」ということを「音楽における読解力」と位置付けて考え、①子どもたちが身に付けなければならない音楽性の基礎・基本と、②教師自身が音楽教育的に通用する上で身に付けたい資質（音楽性）、という考えをもとに、調査研究を進めてきた。

①の児童たちが身に付けなければならない音楽性の基礎・基本については、リズム学習等の低学年からの積み重ねと、その系統的・継続的な学習の重要性を改めて感じた。それらの基礎・基本が身に付き、児童は諸要素を知覚し、「感性により感得する力」が育成され、「音楽（諸要素）を感覚的にとらえる力」が身に付いていくのだというつながりを見出すことができた。これらの過程を、本時の展開では、「学びの基礎づくり」として学習活動に位置付けてある。その力が身に付くことにより、楽譜を読みとることや拍の流れ、旋律線の動きを感得でき、そこから音楽の諸要素に気付いたり発見したりして、音楽を読解する力が育成されていくのであると実感した。そして、これらにより、音楽への理解や表現がより深まりを増していくと考えられる。

また、②の教師自身が音楽的に通用する上で身に付けたい資質（音楽性）という点については、学習指導要領を基に、①の内容で述べた音楽を特徴付ける諸要素を、教材楽曲の中

に見いだし、それらを系統的に配列した指導計画を立て、実践していくことが大切な点であることを痛感した。そのためには、教師自身の、絶えざる深い教材研究が求められることとなる。

資料Dは、これらの考えをまとめたものである。この資料では、児童たちに身に付けさせたい能力、それらの能力の細目、曲例と指導上の注意、という視点でまとめた一例である。また、**資料E**は、教材楽曲をより細目にわたって検討したものである。そして、これらを、学習指導要領に基づき、年間指導計画を作成し実践を心がけることが、より確かな学習の場としての音楽科指導ということにつながっていくと考える。